令和8年度阿倍野区区政会議第1回安全・安心なまちづくり部会でのご意見と対応一覧

［分類］
①当年度（8年度）において対応
②9年度に対応予定
③9年度では対応できないが、今後引き続き検討
④その他

番号	年月	会議	意見内容（要約）（公表）	対応（回答）（公表）	分類
1	R8.8.5	第1回安全・安心なまちづくり部会	**【1-2①】地域防災リーダーの確保に関して「これなら自分でもできる」と思ってもらえるような、現役世代・女性が参加しやすくなる具体的な工夫について** **【1-2②】防災に関心が薄い層が、日常の中で自然と防災を意識したり、地域とのつながりを持てるような「きっかけ（仕掛け）」について】** ・人はメリットを感じることで行動するため、体験型イベントや魅力的なテーマをきっかけにした参加促進が有効である。 ・認定証（親子防災リーダー、救急救命等）の発行や、消防車への興味など、特に若い世代や子どもの関心を惹く工夫が求められる。 ・地域の成功事例や優良な取組を全体で共有し、広げていくことが重要である。 ・子どもの参加は保護者の参加に直結するため、親子をターゲットにした取組が極めて有効である。 ・中学校でのポスター掲示、地域活動協議会やPTAの連携を通じ、幼少期・学生期からの防災教育と意識付けを推進する。 ・平時からの顔が見える関係づくり（あいさつ運動、清掃活動等）が災害時の行動の基礎となる。 ・お祭り要素の導入、スタンプラリーやゲーム、かまどベンチを活用した焼き芋・もちつきなど、楽しみながら自然と防災知識や設備（防災倉庫等）に触れられる機会を創出する。 ・熊本地震等の影響もあり住民の防災関心自体は高いため、若い世代のコミュニティ参画を一層促す。 ・各町会単位での最小限の備蓄のほか、中学生との合同清掃などを通じて将来の地域防災の担い手を育成する。 ・従来の貼り紙だけでなく、X等のSNSを積極的に活用した情報発信へシフトしていく必要がある。	本日の主な論点としては、参加のハードルを下げる工夫、子ども・親子を中心とした防災教育、平時からのつながりづくり（清掃活動等を通じた顔見知りの関係形成）の必要性が挙げられました。 共有された事例・アイデアとしては、親子参加型の防災訓練、子どもが中心となる取組、子どもの印象に残る工夫を取り入れた訓練の提案がありました。 さらに、避難所開設訓練や炊き出し訓練、備蓄の工夫、デジタルを活用した成功事例の紹介などもありました。女性や家族が参加しやすい形にする工夫、取組を継続していくことの重要性も示されました。 一方で、阿倍野区では、地域防災リーダー装備品の充実（防災服（上衣）等の更新等）や災害時備蓄物資の区独自配備（災害時ラップ式トイレ）など、限られた予算の中で工夫して取り組んできました。また、小中学校において防災訓練や防災教育を行い、若年者層の防災力向上を支援したり、地域でのまちなか防災訓練に、区役所や消防署も協力して、自主防災活動の取組を支援しております。 本日いただいたご意見は、今後の事業実施に向けて十分に参考にし、内容を検証しながら、事業の効果や実現性も踏まえつつ、バージョンアップにつなげてまいります。 また、共有いただいた成功事例やアイデアにつきましても、内容を検証しつつ、各団体への共有や提案につなげてまいります。	①